

手づくり郷土賞^{ふるさと} 選定委員会

全体講評

「手づくり郷土賞」は、社会資本と関わりを持つ地域づくりの好事例を広く紹介することにより、個性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が進むことを目的に、昭和61年度に創設され今年度で24回目を迎えました。

受賞箇所をみると、身近な沿道・緑地・川などの維持管理が多く見られる一方で、地域のシンボルとなる施設や歴史・文化・特産物などを核にした賑わいづくり、遊休地・荒廃地など地域の課題に対応した地域づくりなど、地域の特色を踏まえた取組が見られました。

また、住民発意による活動の展開やボランティアによる整備、計画的な事業実施のための基金創設など、まさに住民が主体となって関係者を巻き込んだ活動へと深化している印象を受けました。

その他、地道な活動が時間を経て徐々に展開・発展し、地域全体を巻き込んでいる事例も見られ、各地域で撒かれた種が着実に花開きつつあることを実感させられました。さらには、世代を超えた長いスパンを念頭に置いた取組も見られました。

少子・高齢化、人口減少、経済の低迷など様々な課題を抱える中で、地域が活力を取り戻すためには、郷土に対する熱い想いや危機感を持った住民が主体となり、地域固有の資産を活かし、世代を超えた将来を見据えつつ、地道な活動を展開していくことが望まれます。「手づくり郷土賞」に応募された取組を見ると、そのような活動の先駆けとも言えるでしょう。

今後も、受賞された地域において、活動のさらなる展開が望まれるとともに、このような活動を参考として、他地域でも新たな発想や工夫が生まれ、魅力ある地域づくりに取り組まれることを選定委員会一同期待します。